



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年5月25日(水)

Vol.3 28

災害時相互応援協定市
長野県 飯田市を訪ねて

秋元 秀夫

数年前から時折「災害相互応援都市飯田市」と言う文字を見ることがあり、昨年地元百寿会の春の旅行先に良い所はないかと尋ねられたので「是非、飯田市、高遠の桜、伊郡谷」等を見て来て下さいとお願いしましたが、余りにも桜の名所が多く素晴らしかったので…と飯田市見学には事欠いたとのお話でした。

今年は、地元の友人達と会議所の前田専務にも同行を願って行って参りました。ご存知の様に長野県は日本列島の中央を南北に2~3千メートル級高い山脈に囲まれた細長い県であり、飯田市はその最南端部の静岡に近い位置にあります。地図上で見ると「東名浜松」あたりから北上すればすぐ行きつくように見えますが、2千メートル以上の山脈が阻むのか観光ルートは中央自動車道を諏訪湖辺りまで北上し、岡谷から伊那へ或いは塩尻か木曾路へと南下する観光コースが多い様です。

私達は当日朝6時30分坂田を出発して予定より早く伊那ICから権兵衛峠(権兵衛トンネル)を越え、最初の目的地「奈良井宿」へ着いたのは11時前でした。奈良井宿は電車や自家用車だと便利ですが観光バスは宿場入口までは500メートルくらい歩いてから「奈良井宿千軒」と言われる長丁場です。今回はパスして宿場の外を歩く事にしました。ふと気が付くと家々に薪が山積みにしてあるのでこの辺りは薪を暖房に使っているのかと眺めていたら、突

然黒い門が開いて「どうぞお立ち寄り下さい」と門の中へ招かれて「自動薪割機」を実演して下さい、やがて玄関が開き「こちらへどうぞ。暖炉もございますから」と奥さんがスリッパを揃えてくれました。もっとびっくりした事は帰宅したらご夫婦名で礼状が届いておりました「日本人のもてなしの心」と言うけれど私達にはここまでできるだろうか?と啞然たる思いで御礼状を出しました。

その日は「寝覚の床」「妻籠宿」などを経て南木曾温泉に一泊、新緑したたる湯舟にひたり銘酒「七笑い」に酔って眠りました。

朝9時30分飯田市役所へ着き後藤武志防災係長の出迎えを受けて防災センターへ案内され、およそ40分間説明を受けました。「親切、明快、信念」のあるお話は全員感銘、納得の顔々でありました。後藤さんはもう一枚の名刺に「(社)危機管理教育研究所上席研究員・危機管理士1級」とあり、熊本の応援から帰ったばかりと言われました。「君津市とはミツバツツジが共に市の花のご縁です。お互いに顔が見える関係づくりを目的に交互に防災訓練には参加しており、鈴木市長さんにも御出で頂いております」と案内された防災センターの施設は私達の目を見張らせる「宇宙センター基地」を思わせる素晴らしいものでありました。まさに百聞一見に如かずであります。飯田市は2千メートル級の山が川へ入り迫っており、山崩れ土砂災害が心配される地形であり、平均雨量1400mm(関東平均1500mm)君津亀山地区は2300mmであります。昭和22年日本三大大火にあった後、地元中学生が自分達の手で町に赤い美しい実を实らせようと植えた「りんご並木」が素晴らしい景観を作り「市の木」とされており、フルーツラインの参考にしたいものです。これを機会に更に「顔の見える関係づくり」友好にお役立てください。(すでに南子安自治会も視察訪問されている)